

表2(b) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(b)関連分抜粋)

以下、「関連する基準1の(a)-(i)」の列にテキストフィルタ機能を利用して関連する行のみを印刷する

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基準 1の(a)-(i) の項目	関連する基準 1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(a) (b)	◎ ○	評価方法(A) 「知的財産権」(2017年度カリキュラムより「知的財産法」に科目変更)で、 知的財産の保護および活用まつわる法制度の概要、知的財産権侵害 の成否に関する法的要件及び知的財産権侵害の成否が争われた裁判例 を理解し、類似事例への法的対処法を把握できる能力を持っていること を、講義各回における小テストおよび期末試験により成績評価を行う。成 績評価に占める割合は、小テスト(40%)、定期試験(60%)により評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「工学倫理」で、技術者のモラル、倫理観について具体的事例を考究しつ つ、技術者のあり方、心構えについて考え、一人の社会人として技術者倫 理に関わる問題を適切に解決に導く能力を備えることを、講義各回におけ るレポートにより成績評価を行う。成績評価は各担当者が、レポート(100%) により評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「生命の科学」で、生命・バイオ・環境を理解するために生物学の基礎を学 び、生命の科学に関する生物学の知識を獲得し、身近な生命現象を正し く理解し、生命と環境との相関について考察し、自らの言葉で説明できる 能力を持っていることを、小テスト(20%)、演習(40%)、定期試験(40%)により 評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「情報リテラシー」で、コンピュータの基礎知識や情報倫理について具体的 事例を考究しつつ、アプリケーションの基本的な使い方やインターネットの メリットやデメリットに関し理解し、スキルアップを図ることができる能力を 持っていることを、第8回に実施する課題(40%)、第15回に実施する課題 (60%)により評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「哲学」で、基本的な哲学の理論を理解し重要な選択の際に自己分析や 状況分析ができ、毎時間ごとに示されるキーワード基に、自分自身をどの ようにとらえるか確認する能力を持っていることを、レポート(35%)、授業内 課題(25%)、定期試験(40%)により評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「心理学」で、心の仕組みや働きを理解するために取り上げた基礎概念を 説明でき、日常の事象をこれらの基礎概念と結び付けて説明できる能力 を持っていることを、授業内小レポート(50%)、定期試験(50%)により評価す る。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「日本国憲法」で、統治機構の運営上生じる憲法問題を正確に理解できる 能力と、重要な憲法裁判例の事実関係およびそこにおける憲法上の争点 を把握したうえで、国家行為の合憲性について推論し、結論に至るまでの 論理を説明できる能力を持っていることを、小テスト(40%)、定期試験(60%) により評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「人権論」で、人権保障の根底にある価値理念を理解でき、これらの価値 理念が個別具体的事案においてどのように実現されているか、または実 現されるべきかを、対立する諸見解をふまえて説明できる能力を持っている ことを、小テスト(40%)、定期試験(60%)により評価する。
(A)大項目A 社会における技術者としての 責任感の養成 地域社会や国際社会に貢献する ために、幅広い教養を持ち、 倫理観をわきまえ、技術者として 責任ある行動がとれる。		(b)	◎	評価方法(A) 「政治基礎論」で、日本国憲法の統治構造の根底にある基本原理を理解し 、この原理が具体的な統治構造にどのように反映されているかを把握で きる能力、政治運営のなかで生じる人権問題の解決法について、実例を あげつつ説明できる能力を持っていることを、小テスト(40%)、定期試験 (60%)により評価する。